

(新)低濃度P C B汚染物の適正処理実証調査事業

25百万円(0百万円)

廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課

1. 事業の概要

P C B 廃棄物の処理については、現在、P C B 廃棄物の太宗を占める高圧トランス等について、全国5カ所のP C B 廃棄物処理施設を整備し、処理を推進。

今後、ウエス、汚泥等のP C B 汚染物について、効率的な処理技術の開発を踏まえ、処理体制の整備に着手。

また、低濃度P C B 汚染物については、「低濃度P C B 汚染物対策検討委員会」における原因究明調査結果を踏まえ、原因究明結果を踏まえた処理責任の整理、処理対象範囲、処理期限、処理方法など処理の基本的方向について検討。

2. 事業計画

P C B 廃棄物処理のための拠点的施設整備事業において、高圧トランス等の処理施設の整備に加え、平成18年度においては、北九州二期事業において安定器、感圧複写紙、汚泥等のP C B 汚染物の処理施設の整備に着手。

低濃度P C B 汚染物については、平成18年度に低濃度P C B 汚染物の適正処理実証調査事業(新規要求)を実施し、既存の処理技術による低濃度P C B の実証試験を行う。

3. 施策の効果

国内において長期にわたり処分されていないP C B 廃棄物について、確実かつ適正な処理が推進される。

P C B 廃棄物量

安定器：約360万個(機器重量 約1万トン)、汚泥：約2万トン

感圧複写紙：722トン

また、P C B の量そのものはわずかであるが、台数が約120万台と多い低濃度P C B 汚染物について、確実かつ効率的な処理が推進される。

低濃度汚染物等を含めたPCB処理対策の推進

第1段階

高圧トランス・高圧コンデンサ
・1台当たりのPCB含有量が多い



日本環境安全事業株式会社が
全国5カ所に処理施設を整備

第2段階

ウエス、汚泥等のPCB汚染物
・PCB含有量が少ない
・近年、効率的な処理技術が開発



平成18年度に北九州2期事業において
PCB汚染物の処理施設の整備に着手

第3段階

低濃度PCB汚染物
・微量のPCBが混入
・処理の基本的な方向を検討中



**既存の処理技術による低濃度PCB
汚染物の適正処理実証調査事業**



効率的な処理の推進